

# Q 高齢者への情報提供のあり方について

すぎた 杉田 恭之 議員



# A 情報提供の充実を図る

**問** 高齢者福祉課への主な問合せや相談内容は。

**答** 要介護認定の方法など、介護保険制度に関する相談が多く寄せられている。また、地域包括支援センターには、介護に加え、健康や福祉、医療や生活、認知症などに関する相談が寄せられている。

各地域支え合い協議会の高齢者に対するサービスの情報提供方法は。

**答** 各団体がサービス内容や利用方法等を記載した独自のチラシ等を作成し、市役所や地域包括支援センターに配置するなど、情報発信に努めている。

**問** 生活サポートの上での課題は。

**答** 各団体の会員の高齢化により、担い手不足が懸念されている。ま



た、シルバー人材センターや地域支え合い協議会では、需要が多いサービスに対するスタッフ不足が課題であると伺っている。

**問** ガイドブックにした情報提供方法への見解は。

**答** 市では生活支援や介護支援サービス等をまとめた高齢者福祉の冊子を作成し、市役所等で配布している。今後は、これに各種の生活サポート情報を掲載するなど、情報提供の充実を図っていく。

# Q ひきこもりの現状とその支援

もちだ やすあき 持田 靖明 議員



# A 鶴ヶ島市全体でしっかりと対応していく

**問** ひきこもりの現状は。

**答** 既存の統計資料では市の総数は把握できない。市に寄せられる相談を通じて把握に努めている。

**問** ひきこもりへの支援は。

**答** 埼玉県ひきこもり相談サポートセンターや坂戸保健所などの専門相談窓口につなげている。鶴ヶ島市社会福祉協議会の生活サポートセンターでも、訪問によるアウトリーチ支援や当事者に寄り添う伴走型支援を行っている。まずは家族、そして本人との信頼関係を築くことから始めている。

**問** 生活保護受給者数の推移は。

**答** 平成29年度から30年度にかけて530世帯から554世帯に増

加した。ひきこもりの疑いがある受給者もごく少数いる。

**問** ひきこもりによって引き起こされる問題とは。

**答** 長期化・高年齢化が進むと、その状態から脱するのが困難となる。また、社会的孤立や親の死亡等による生活破綻などが懸念される。アウトリーチ支援の拡充も、国の動向を注視して検討したい。

**問** ひきこもりの未然防止・早期発見に対する本市の考え方は。

**答** 早期発見・早期対応が重要であり、早期に相談できるよう広報・PRに努め、相談窓口の周知と相談体制の充実を進める。



ひきこもり…仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態のこと。(厚生労働省定義)